

せったん

第144号 2013年1月5日

発 兵庫県保険医協会北摂・丹波支部
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
行 TEL078-393-1801 (代) FAX 078-393-1802

北摂・丹波支部



謹んで新年の
お慶びを申し上げます



森下順彦支部長

新年おめでとうございませす。

昨年未の総選挙で安倍自民党政権が誕生しましたが、自民党への支持の広がりということではなく、民主党への失望の反映であったと思います。

しかし、自公政権の推進しようとする混合診療解禁につながるT P P参加や消費税増税、原発再稼働など多くの国民の要求とは矛盾が深まることも予想されます。このような情勢のもとで、今年は医療・社会保障の拡充に向け、より一層運動を強めることが重要になります。ご協力をよろしくお願ひ致します。



18人が参加 (三田市総合福祉センター)

院内感染対策研修 Part11

在宅での感染対策は患者家族、他職種とともに

感想文

北摂・丹波支部は11月10日、院内感染対策研修会を三田市内で開催。「在宅医療での感染対策」をテーマに済生会兵庫病院看護師の小川麻由美氏が講演し、18人が参加した。参加者の感想文を紹介する。



さて、北摂・丹波支部では、昨年も、新点数研究会をはじめ、市民公開の『ゴジラ』上映会&学習会」やレクリエーション企画「ソーセイジ作り&アイスクリーム作り」、年2回恒例の院内感染対策研修会、接遇研修会など、多彩な活動を行ってきました。

県立こども病院のポートアイランド移転の見直しを求める取り組みでは、三田・篠山・丹波3市議会に意見書提出を求めて請願を行い、篠山市議会で趣旨採択

されるなどの画期的な成果を得ました。

これら北摂・丹波支部の活動へご協力いただきました先生方には心より感謝致します。今年も、先生方やスタッフの皆さんの役に立ち、楽しんでいただける行事を企画するとともに社会保障の充実を求めて支部活動推進していききたいと思います。今年もどうぞよろしくお願ひ致します。



新点数研究会 (3/23)



接遇研修会 (丹波市・5/19、三田市・6/23)



ソーセイジ作り&アイスクリーム作り (10/14)

在宅ケアとは、在宅でのさまざまなケアの総称として使われる言葉であり、自宅という患者固有の空間で、いろいろな職種が関わるといった特性があります。在宅では、医療機関内とは全く違う環境や衛生状態、医療・看護や介護のサー

ビスを提供することになります。感染予防の具体的な方法は、患者の生活や価値観を尊重しながら行うこと、家族やサービス提供者全員が共有できる方法を工夫する必要があります。

手指衛生の方法・正しいマスクの着用方法・デイスポ手袋の使用方法・吐物や便等の処理方法・器物の消毒方法やリユースする医療材料の取り扱い方法など、在宅ケアに携わる医師や看護師は、患者家族や他職種へ指導するとともに、なぜそうするのかということ

説明し、理解を得なければなりません。

また、流行性の感染症が流行する前には、予防や対策の説明を行う必要もあります。在宅では、患者同士が直接接する機会は少ないですが、訪問するサービス提供者が感染の原因や誘因になる可能性があります。注意したいです。

今後、インフルエンザやノロウイルスの感染対策に、この研修を応用していく所存です。

【篠山市・にしき記念病院 ケアマネジャー

中川 喜子】



篠山市の医療をよくする会

篠山市

酒井篠山市長と懇談

篠山市の医療をよくする会(北摂・丹波支部加入)は、12月10日、昨年市民対象に実施した「地域医療に関するアンケート」結果に基づいてまとめた地域医療に関する問題について市長に対して要望書を提出し、懇談を行った。

主要要望項目と回答は下記の通りとなっているが、乳幼児医療費助成制度の拡充に関しては、対象を中学3年まで拡大する方向で検討していることや、看護師確保対策として来年度から奨学金制度を創設する計画であることなどを明らかにした。

また、県立こども病院の移転問題については、県の問題であり意見する立場にはないとしながら、県中央部への移転なら積極的に賛

成したいと述べた。

懇談には、市から、酒井隆明市長と前田公幸保険福祉部長、よくする会からは7人が出席した。主要要望項目と回答は以下の通り。

①脳卒中・心筋梗塞などの初期のスピーディーな対応のために、市内の救急車の配備のさらなる充実について

消防本部は、現在1署、3出張所で運営しており、救急車4台へほか予備車1台をそれぞれ各署所に配備しています。救急車の台数は、国の基準(人口)に照らしますと、2台となりませんが、救急出動回数及び管内面積を勘案しさらに2台増やしています。24時間体制で救急車を稼働しているのは本署のみです。今後出張所も24時間体制とし救急体制の充実を目標にしていますが、人員の増強等、市の財政事情を鑑みながら検討していきます。

②市内に看護学校を設置及び市立柏原看護学校との連携検討について
篠山市看護人材確保育成検討委員



酒井隆明市長

会を設置し、看護人材確保について検討中です。県立柏原看護専門学校は平成27年度から丹波市へ移管されることになっており、篠山市内からも引き続き進学することが出来ます。従いまして市内の看護学校の開設及び丹波市立柏原看護専門学校との連携について、今のところ回答することは出来ません。

③中学卒業前までの通院医療費の窓口無料化について
現在、小学校6年生まで通院医療費助成を行い負担の軽減を行っています。これをさらに無料化に移行するのは財政面から難しいと考えています。現行の乳幼児医療費助成制度の対象を小学6年生から中学3年生まで対象を拡大することを検討しています。

④県立こども病院のポートアイランド移転を見直すよう、県に働きかけることについて
県立こども病院は兼の施設であり、移転については県において、医療機能の向上や防災面の検証等総合的に判断された結果ポートアイランドを選定され、また県議会において県立こども病院の移転整備計画の意思決定がされており、施策も進められているため、兵庫県への意見具申はいたしません。

保団連公害視察会に 森下支部長が参加

保団連は11月3、4日に福島市、二本松市内で公害視察会を開催し、全国から50人が参加した。

兵庫協会から林祐介・川西敏雄両副理事長、森岡芳雄・森下順彦両理事、坂口智計評議員が参加した。また、兵庫協会は3日の視察会前に独自企画として、南相馬市の大町病院、飯館村



森下順彦先生(右から4番目)

の特別養護老人ホーム「いたてホーム」を訪問した。(兵庫保険新聞12月5日号に掲載)

第82回評議員会

中西幹事が支部の 取り組みを報告

11月20日に開催された協会第82回評議員会(協会会議室)に、北摂・丹波支部より森下順彦支部長、安部治郎先生(安部整形外科クリニック)、中西透先生(中西歯科医院)、小寺修先生(小寺歯科医院)が出席、支部の活動と被災地支援について中西透先生が発言した。発言の要旨を掲載する。(兵庫保険新聞12月15日号に掲載)



中西透先生

へ「こども病院ポータルサイト」の請願活動に取り組んだ。

三田市では森下支部長が意見陳述を行ったが、結果は不採択になった。篠山市では、委員会が杉本支部幹事が、小児科医の立場からこども病院の役割を訴え、自民党議員も含めて賛成多数になり、趣旨採択された。画期的成果で、議員との関係も深まった。

恒例のレクリエーション企画「ソーセージづくりとアイスクリームづくり」も大好評だった。

「こども病院」請願
三田市・篠山市・丹波市

第21回日常診療経験 交流会

大槻幹事が演題発表

10月28日に神戸市産業振興センターで開催された日常診療経験交流会で大槻榮人先生が「知的障害者入所更生施設における11年間の歯科検診のまとめ」を分科会で演題発表した。(兵庫保険新聞11月25日号に掲載)



大槻榮人先生